



初級フランス語 講座

12月26日

Sudden Fiction Project

高階 經啓
hirotakashina

12月16日のおはなし「初級フランス語講座」

「のそのそパワーの全裸回転！」母が宣言する。断るまでもないが、意味は分からない。「さあご一緒に。ほら、そこの小さなヒト型生命体！」

ぼくのことを言っているらしいということはわかる。けれど、なぜそんな持って回った言い方をするのかはわからない。だってぼくは、仮にも、実の息子だというのに。

「ランディ、マンディ、メクルディ！」

母はゴキゲンで叫びながら階段を降りていく。

何を言っているのかさっぱりわからない。同じ国の人間だとはとても思えない。それはみなさんが思う以上にとても悲しいことだ。だって、仮にも実の母親だというのに。

こんな風にしてぼくの1日は始まる。それはときに「のそのそパワーの全裸回転」だし（「回転」なのか、「開店」なのか「回天」なのか正確なところはわからない）、ときに「らっきょうぶぐりのどすどすパンチ」だし（意味は聞かないでくれ！）、ときに「憤怒童子のお祝いメッセージ」だし（意味は聞いたとおりに思う）、とにかくそういう、意味はないが勢いだけはある言葉と共に目を覚ますことになる。

意味はないが勢いだけはある。これはつまり母の存在そのものを言い当てた言葉かもしれない。そう考えると、あの予想のつかない言動はすべて母の存在そのものが形となって溢れ出しただけで、文字通り、意味などなくて溢れ出した勢いが音や動きとなったものなのかもしれない。なんてもっともらしい分析をしたからといって、それに振り回されるぼくの日常になんら変化があるわけではないが。

ベッドから出てトイレをすまし着替えをすますまでは特に驚くようなことはなかった。いくつか用意されたヘンな靴下——ものすごくイヤな顔つきをしたサンタの人形がぶら下がっている靴下や、黒字に白抜き文字で片方にはLOVE、片方にはHATEと書かれた靴下、何か毛糸以外のぷにぷにした怪しい素材でできた靴下など（どこで見つけて来るんだ、一体？）——いくつかのヘンな靴下をどけて引き出しからまっとうな靴下を取り出したくらいで、そのくらいなら、まあ普段通りだった。

問題はその後だった。

着替え終わって下の階に降り、朝食のテーブルを見たときぼくの足は止まった。

「何をしているのさアプレゲール！」ぼくの知らない単語だ。あとで調べておこう。どんなひどいことを言われているかわからないから。「ささっと笹餅食べしゃんせ」

といっても食卓に笹餅があるわけではない。ただの語呂合わせだ。むしろ笹餅があった方がまだ筋が通っていていいのだが。ぼくが足を止めた理由はもっと他にある。

驚いたことにその食卓には、きつね色にトーストされた山形パンとクロワッサンが盛りつけられた皿、つやつたした仕上がりのスクランブルエッグ、ちょっとフチが焦げたくらいのカリカリベーコン、そして明るい緑が目にも優しいコールスロー・サラダ、傍らにはオレンジジュースの入ったグラスと、湯気を立てるカフェオレのカップがあったのだ！

罨だ。とっさにぼくが考えたのはそれだった。罨に違いない。だってここにあるのは、あまりにも正統なブラックファーストではないか。大量のマッシュポテトで作られたムンクの叫びもなければ、コーンフレークとレバーペーストでニッサン・スカイラインをかたどったゴーン・フレークもない。どこかに罨があるに違いない。カフェオレに見えるけれどあれが別なものなのかもしれない。いや皿の真ん中に堂々と横たわる山形パンに見えるもの、あれが一番怪しい。

忙しく視線をさまよわせるぼくに母が言った。

「ごめんね。今朝は何も用意して上げられなくて」

えっ？ 母はそう言うと席に着きぼくにも席に着くよう、目線でうながした。
「さあ一緒に食べましょうシルブプレ。今日はお母さんも早く出なきゃいけないから」

えっ？ おかしい。あまりにも普通だ。これではまるで友だちのうちみたいだ。ぼくは着席すると用心深く食べ始めた。でも、どれもこれも何の問題もない朝食だった。というより、こんな用心しいい食べるのでなければ、とてもおいしい朝食だった。カフェオレを飲み干してカップの底にも何の仕掛けもないことを確認してから（つまり、全くノーマルな朝食を食べ終えることができたのを確認してから）、ぼくは母に尋ねた。

「どこに行くの？」

「幼稚園にね」

「幼稚園？ 何かあるの？」

言い忘れていたが、ぼくはいま幼稚園に通っていて、今年で卒園する。年長さんなんだ。

「退園の手続きとご挨拶をね」

何だって?! 退園だって? そんなの聞いていないよ。どうしてぼくに一言の相談もなく、そういうことを決めちゃうんだ!

「いやだよ!」ぼくは叫ぶ。「退園なんていやだ」

「退園するのよ!」いきり立って母が言う。「退園してムルロワ環礁に行くのよ!」

「ああ」ああ。それでわかった。「ムルロワ環礁ね」

昨夜のドキュメンタリー番組だ。NHKスペシャルだっけ。シラクのフランスが南太平洋かどこかで核実験を強行して、それに反対を表明するために日本の大臣なんかが現地へ乗り込んだりした事件を取り上げて解説していた。いや。今起こっている事件じゃない。もう何年も昔、たぶん10年以上前のできごとだ。フランスと核政策とか言う切り口で古いアーカイブを放送していたのだ。

「おかあさん」

「コマンタレブー!」母は勢いよく立ち上がるとAラインのドレスを翻しぼくに指を突きつけ、決めつける。「許しませんわよモンクタレブー!」

だからか。決めつけられながらぼくは悟る。だから今朝はフランスがテーマなんだ。

「ヴワラ! ヴワラ!」にわかフランス語講座だ。きっと無意味な例文を連呼しているだけなんだろう、さっきから。「イリヤ・ボクウ・ドウ・モンド・ダン・ラ・プラーヌ!」

「おかあさん、フランスはもう核実験をやっていないよ」

「だから行くんじゃないか!」母が吼える。言っていることが滅茶苦茶だ。「誰も行かなくなったから行くんじゃないか!」

「はいはい」ぼくは立ち上がり歯をみがきに行く。

「やりっぱなしにはさせないわよ」後ろで母が呟く。「やったもん勝ちにはさせないんだから」

その声の調子を聞いてぼくは立ち止まり、振り向いて母を見る。母はすっと立ち尽くしたまま涙を流している。

(「核実験」 ordered by こあ-san/text by TAKASHINA, Tsunehiro a.k.a.hiro)

感謝の言葉と、お願い&お誘い

Sudden Fiction Project（以下SFP）作品を読んでいただきありがとうございます。お楽しみいただけましたでしょうか？ もしも気に入っていただけたらぜひ「コメントする」のボタンをクリックして、コメントをお寄せください。ブログへの登録（無料）が必要になりますが、この機会にぜひ。

「気に入ったけどコメントを書くのは面倒だ」と言うそのあなた。それでは、ぜひ「ツイートする（Twitter）」「いいね！（Facebook）」あたりをご利用ください。あるいは、mixi、はてな等の外部連携で「気に入ったよ！」とアピールしていただくと大変ありがたいです。盛り上がります。

※星5つで、お気に入り度を示すこともできますようですが、面と向かって星をつけるのはひよっとしたら難しいかも知れませんね。すごく気に入ったら星5つつける、くらいの感じでご利用いただければ幸いです。

現在、連日作品を発表中です。2011年7月1日から2012年6月30日までの366日（2012年はうるう年）に対して、毎日「1日1篇のSFP作品がある」という状態をめざし、全作品を無料で大公開しています。→[公開中の作品一覧](#)

SFP作品は、元作品のクレジットをきちんと表記していただければ、転載や朗読などの上演、劇団の稽古場でのテキスト、舞台化や映像化などにも自由にご活用いただけます。詳しくは「[Sudden Fiction Project Guide](#)」というガイドブックにまとめておきました。使用時には、コメント欄で結構ですので一声おかけくださいね。

ちょっと楽屋話をすると、7月1日にこのプロジェクトを開始して以来、日を追うごとにつくづく思い知らされているのですが、これ、かなり大変なんです（笑）。毎日1篇、作品に手を入れてアップして、告知して、[Facebookページ](#)などに整理して……って、始める前に予想していたよりも遥かに手間がかかるんですね。みなさんからのコメント、ツイート（RT）、「いいね！」を励みにがんばっていますので、ぜひご協力お願いいたします。

読んでくださる方が増えるというのもとても嬉しい元気の素なので、気に入った作品を人に紹介して広めていただけるのも大歓迎です。上記Facebookページも、徐々に充実させてまいりますので、興味のある方はリンク先を訪れて、ページそのものに対して「いいね！」ボタンを押してご参加ください。

10月からは「1日1篇新作発表」の荒行（笑）を開始し、55作品ばかり書き上げる予定です。「[急募！お題 この秋Sudden Fiction Project開催します](#)」のコメント欄を使って、読者のみなさんからのお題を募集中です。自分の出したお題でおはなしがひとつ生まれるのって、ぼくも体験済みですが、かなり楽しいですよ！ はじめての方も、どうぞ気軽に遠慮なくご注文ください（お題は頂戴しても、お代は頂戴しないシステムでやっています。ご安心を）。

こんな調子で、2012年6月30日まで怒濤で突き進みます。他にはあんまりない、オンラインならではの風変わりな私設イベントです。ぜひ一緒に盛り上がってまいりましょう。

初級フランス語講座

<http://p.booklog.jp/book/40430>

著者 : hirotakashina

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/hirotakashina/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/40430>

ブックログのpapier本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/40430>

公開中のSudden Fiction Project作品一覧

<http://p.booklog.jp/users/hirotakashina>

電子書籍プラットフォーム : ブックログのpapier (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社paperboy&co.